

第10回定期演奏会
保科アカデミー室内管弦楽団
“アンサンブル=ハルモニア”

指揮:秋山 隆(常任指揮者)

プロコフィエフ (1891-1953)

交響曲第1番二長調『古典』

保科 洋 (1936-) =委嘱作品 / 初演 =

新曲(独奏ホルンのための管弦楽曲)

ホルン独奏:杉本賢志

指揮:保科 洋(音楽総監督)

メンデルスゾーン (1809-1847)

交響曲第3番『スコットランド』

"The 10th Regular Concert"

Sergei Prokofiev

"Classical Symphony" in D major

I. Allegro II. Larghetto

III.A. Gavotte IV. Finale; Molto vivace

Hiroshi Hoshina < Premiere >

Ballade for Horn and Orchestra

Satoshi Sugimoto, Horn Solo

Felix Mendelssohn Bartholdy

Symphonie Nr. 3 "Schottische"

Introduction und Allegro agitato -

Scherzo assai vivace - Adagio cantabile -

Allegro guerriero und Finale maestoso

Aki Washino, Concertmaster

Hiroshi Hoshina / Takashi Akiyama

1/21/2007 [日]

第10回定期演奏会

[倉敷市芸文館]

岡山県倉敷市中央 1-18-1

Tel: 0867-42-7000

開場: 13:15 開演: 14:00

一般 ¥1,800 (前売 ¥1,500)

学生 ¥1,500 (前売 ¥1,000)

2/3/2007 [土]

第10回定期記念東京公演

[第一生命ホール]

東京都中央区晴海 1-8-9

晴海アイランドトリトンスクエア

Tel: 03-3532-3535

開場: 17:45 開演: 18:30

一般 ¥2,000 (前売 ¥1,500)

学生 ¥1,500 (前売 ¥1,000)

全席自由(上記2公演とも)

恐れ入りますが就学前のお子様の
御入場はご遠慮頂いております。

* プログラムは両公演とも同一です。

このチラシご持参の方、

当日でも前売料金にて御入場頂けます。

(ただし、座席数の都合で当日券が

販売できない場合もございます。)

< 演奏会のお問い合わせ >

Tel & Fax: 086-253-3703(秋山)

e-mail: Hoshina_Academy@hotmail.com

www003.upp.so-net.ne.jp/Horn/HoshinaAcademy/

THE
HOSHINA
ACADEMY
Chamber Orchestra
“Ensemble=Harmonia”

保科 洋 ほしな ひろし 名誉指揮者・音楽総監督

昭和11年東京に生まれる。両国高校卒業後、昭和29年東京芸術大学作曲科に入学。昭和35年同大卒業とともに、毎日コンクール作曲部門管弦楽曲の部第一位入賞。昭和38年には、文部省芸術祭奨励賞受賞。東京音楽大学、愛知県立芸術大学を経て、昭和58年兵庫教育大学教授。平成13年3月定年退官し同大名誉教授となる。作曲・指揮の両面で活躍。

吹奏楽の作曲においては、日本を代表する一人で、海外でも評価は高い。全日本吹奏楽コンクール課題曲も過去3回委嘱されている。

作曲家としての見地から、また多くのアマチュア音楽団体の豊富な指導経験と、理論的根拠に基づく独自のユニークで説得力のある音楽解釈は、近年注目を集め高く評価されている。それらの集大成として音楽の友社より『生きた音楽表現へのアプローチ』=エネルギー思考に基づく演奏解釈法=(保科 洋著)が出版されている。類書のない理論的音楽解釈法として、アマチュア音楽愛好家はもちろん専門家の間でも評判になっている。

主な作品に、「カストロフィ」「古祀」「吹奏楽のためのカプリス」「愁映」「風紋」「パストラレ」「祝典舞曲」「饗宴」「管弦楽のための変奏曲」、創作オペラ「はだしのゲン」などがある。

杉本 賢志 すぎもと さとし ホルン独奏

1950年 岡山県阿哲郡哲多町生まれ。

1969年 岡山大学工学部入学。同時に岡山大学交響楽団に入部。

1974年 岡山大学交響楽団サマーコンサートにおいて、R・シュトラウスのホルン協奏曲第1番を共演。

1978年 岡山大学交響楽団のコンダクターとなり、以降10年間保科洋先生のもとで研鑽を積みつつ後輩の指導に当たる。

1983年 岡山交響楽団発足と同時にホルン奏者として入団。インスペクター・運営委員長・団長を歴任し1996年より同団の常任指揮者を務める。

1992年 川崎医科大学室内管弦楽団第19回定期演奏会において、モーツァルトのホルン協奏曲第3番を共演。

1998年 保科アカデミー室内管弦楽団第4回定期演奏会において、モーツァルトのホルン協奏曲第2番を共演。

現在 岡山交響楽団常任指揮者
川崎医科大学室内管弦楽団管楽器トレーナー
倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ指導員
逸見緑地(株)に勤務。

秋山 隆 あきやま たかし 常任指揮者

昭和40年岡山市に生まれる。高松中学校吹奏楽部にて奥原弘巳氏に指導を受け当時新設の岡山一宮高校に進学。昭和58年岡山県では初の学生指揮者による吹奏楽コンクールA部門金賞受賞として注目される。

昭和59年岡山大学医学部入学と同時に、岡山大学交響楽団にトランペット奏者として入部。現役時代には学生指揮者を務め、昭和62年の第2回全日本大学オーケストラコンクール第1位獲得に貢献する。卒部後サブコンダクターとして、常任指揮者保科洋氏のアシスタントを行い今日に至る。

平成6年当団を同級生後輩らと独自に組織し、責任者兼指揮者として活動。第4回定期演奏会後、医学部助手を退職しアメリカ留学(カリフォルニア大学パークレー校客員研究員)。その間当団も活動を停止。帰国後活動再開。

トランペットを鈴木勝久氏に師事。指揮法を奥原弘巳氏、保科洋氏、David Milnes 氏に師事。

平成14年10月より川崎医科大学病理学教室講師として現在に至る。医学博士、病理専門医。

保科アカデミー室内管弦楽団

“アンサンブル=ハルモニア”

この団体は岡山大学交響楽団OBと一部現役部員の協力を得て1994年に結成されたユニークなオーケストラである。メンバーは公務員・会社員・教員・医師・専業主婦・大学院生および大学生と様々であるが、共通しているのは全員岡山大学交響楽団の関係者であり、『保科節』(ほしなぶし=「保科理論」に基づく音楽解釈と演奏)に深く共鳴している点である。岡大オケとは、また違うコンセプト(編成・曲目・練習時間など)で、その実践を目指すのが目的である。

岡山大学交響楽団は50年を越える歴史と数々の伝統を有する大学オケである。年2回の岡山シンフォニーホールでの定期的な演奏会のほか、1983年以來5年毎5回の大阪・ザ・シンフォニーホールでの自主公演や、1987年の第2回全日本大学オーケストラコンクールでの第1位受賞を含む、3度の東京での演奏により、全国的にも名を知られるようになっていく。

その岡大オケを40年もの永きに渡り、手塩にかけて育て上げたのが、常任指揮者保科洋氏である。いうまでもなく『保科アカデミー室内管弦楽団』という名称は、氏の教え子たちの集まりという意味であり、「ハーモニーを重視しながら、緻密な演奏を目指す」という氏の演奏理念を強調するのが“アンサンブル=ハルモニア”というネーミングの由来である。

1999年から2年間主宰者秋山の米国留学により活動を停止していたが、帰国後直ちに活動を再開し、2001年4月には活動再開記念演奏会を行った。同年9月には音楽総監督保科洋氏を迎えて、第5回記念定期演奏会を兵庫県と倉敷において行った。2002年4月には、岡山市郊外に待望の専用練習場『響塾洋楽堂』も完成し更に一層充実したユニークな音楽活動が期待される。2004年には、創立10周年ということで初の東京公演(第一生命ホール)を行い、好評を博した。

社会人が中心で、平均して月一度の練習でどこまでできるのが未知数であるが、共通体験・共通言語を持つ者同志で楽しみつつ、真剣に『保科節』の実践に取り組んでいる。

【保科アカデミー室内管弦楽団後援会のご案内】

当団後援会は年会費3000円で、小学生以上の方でしたらどなた様でもご加入頂けます。当団演奏活動のご案内と倉敷定期演奏会2名様分のご招待券をお送りいたします。その他、メンバーが関係します演奏会のご案内や招待状を差し上げることがございます。

また、専用練習場『響塾洋楽堂』でのアンサンブル大会や、地域の小学校での依頼演奏会にもご招待をすることがあります。

後援会連絡先: 〒700-0825 岡山市田町1-8-4 梅田 環
Tel & Fax: 086-231-3778

e-mail: Hoshina_Academy@hotmail.com